

令和2年度(2020年度)

管理事業名	千里ニュータウン情報館事業			総合計画の体系	大綱 6 政策 1 施策 1	都市形成 みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり 土地利用誘導と良好な景観形成
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 29 千里ニュータウンプラザ費
部局名	都市計画部	予算執行所属	計画調整室			
予算大事業名	千里ニュータウン情報館事業					
事業の目的と概要	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
【目的】	千里ニュータウンのまちづくりの資料収集、公開、情報発信を行うことにより、千里ニュータウンのまちづくりの推進に寄与する。					
【概要】	千里ニュータウンプラザ管理事業(情報館)(千里ニュータウンプラザ内に設置している千里ニュータウン情報館の建設費や修繕費などの維持管理経費に関すること) 千里ニュータウン情報館展示等事業(千里ニュータウンのまちづくりの歴史や住民の生活文化に係る資料の展示、地域情報の発信に関すること)					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
入館者数	人	10,215	26,749	5,157	千里ニュータウン情報館の入館者数
維持管理経費の執行額	千円	15,968	15,834	14,882	公共施設として、入館者の利便性、快適性の向上を図りながら維持管理経費の適正な執行を行う。
成果の説明	入館者数については、令和元年度まで増加傾向でしたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館期間を設けたことや、毎年開催している企画展示、他施設との連携イベントの開催ができなかったことにより、大幅に減少しました。 令和2年度は、展示以外の形で情報発信の方策を検討し、千里ニュータウンに関するオンラインセミナー(全3回)を実施しました。 維持管理経費については、安全で清潔な環境を維持しつつ館内設備の節電を行うなど、削減に努めています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
経常収入				
在庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	-	4	4
経常収入 小計(a)	-	-	4	4
経常費用				
給与関係費	19,686	22,693	20,903	△1,790
物件費	8,359	9,194	6,432	△2,762
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	4	4
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	1,012	1,012	1,012	-
費用				
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,763	1,910	1,512	△399
退職手当引当金繰入額	1,520	1,792	△3,071	△4,863
支払利息	2,087	1,940	1,783	△157
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	34,427	38,542	28,576	△9,966
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△34,427	△38,542	△28,572	9,970
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△34,427	△38,542	△28,572	9,970
一般財源充当額	41,278	44,910	40,018	△4,892
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	6,852	6,367	11,445	5,078

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	事業従事人数減少による減 職員人件費 20,903千円(△1,790千円)
物件費	物件費 6,432千円(△2,762千円)主な減は委託料 千里ニュータウンプラザ管理事業(情報館) △692千円 千里ニュータウン情報館展示等事業 △2,187千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	-	4	4
行政サービス活動支出	33,706	37,272	32,376	△4,896
行政サービス活動収支差額	△33,706	△37,272	△32,372	4,899
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	66	-	-	-
財務活動支出	7,638	7,638	7,645	7
財務活動収支差額	△7,572	△7,638	△7,645	△7
収支差額 合計	△41,278	△44,910	△40,018	4,892
一般財源充当額	41,278	44,910	40,018	△4,892
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	行政サービス活動支出
	職員人件費 24,157千円(△1,981千円) 物件費 6,432千円(△2,762千円)

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
入館者1人あたりのコスト	平成30年度	10,215人	3,370円	令和3年3月31日現在の入館者数で算出し、入館者1人当たり5,541円のコストが生じています。入館者数の減少により、前年度と比べて増加しています。
	令和元年度	26,749人	1,441円	
	令和2年度	5,157人	5,541円	
床面積1㎡あたりの費用	平成30年度	206.94㎡	166,362円	施設の床面積1㎡当たり138,088円のコストがかかっています。給与関係費や物件費の減少により、前年度と比べて減少しています。
	令和元年度	206.94㎡	186,247円	
	令和2年度	206.94㎡	138,088円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	9,556	9,157	△399
未収金	-	-	-	地方債	7	7	0
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,910	1,512	△399
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	7,638	7,638	-
事業用資産	42,422	41,410	△1,012	固定負債	102,135	90,076	△12,059
有形固定資産	42,422	41,410	△1,012	地方債	59	51	△7
土地	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	退職手当引当金	18,059	13,645	△4,414
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	84,018	76,380	△7,638
無形固定資産	76	76	-	負債の部合計	111,691	99,233	△12,458
有形固定資産	-	-	-	純資産	△69,193	△57,748	11,445
インフラ資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	42,498	41,485	△1,012
基金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	42,498	41,485	△1,012
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

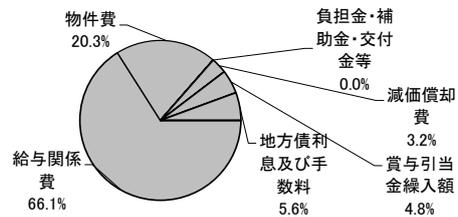
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	2.3人	403日	0日	19,345
給与関係費等	15,369千円	3,976千円	0千円	
内、時間外勤務手当	490千円			

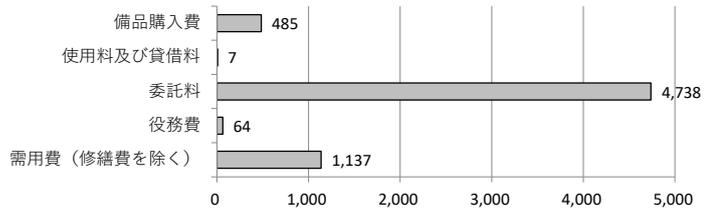
貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	千里ニュータウン情報館減価償却により1,012千円の減
その他固定負債	PFI事業債務の返済による7,638千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	千里ニュータウン情報館
取得年月日	平成24年(2012年)6月1日
建物・工作物の取得価額	50,268千円
建物・工作物の減価償却累計額	8,859千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

分析指標	(単位:%)				
	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		-	-	-	-
施設老朽化比率		13.6	15.6	17.6	2.0
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		99.8	100.0	100.0	0.0
経常費用対公共資産比率		68.5	76.7	56.8	△19.9

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、給与関係費20,903千円(66.1%)、物件費6,432千円(20.3%)となっています。本事業の業務は、千里ニュータウン情報館の維持管理や来館者対応、企画展示の開催等、職員によるソフト事業が中心であるため、給与関係費が経常費用全体に対し多くの割合を占めています。減価償却により資産(建物)が減少しています。平成24年に供用開始した施設ですので、老朽化率は17.6%と、市保有施設全体の老朽化率57.2%と比較して、かなり低くなっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

千里ニュータウン情報館は平成24年(2012年)9月3日に開館しました。入館者数について、平成28年度(2016年度)からは増加傾向にありましたが、令和2年度(2020年度)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館期間(157日間)を設けたことや、毎年開催している企画展示、他施設との連携イベントの開催ができなかったことにより、大幅に減少しました。令和2年度(2020年度)は、施設への集客を目的とするイベント開催が難しい中、千里ニュータウン情報館オンラインセミナーを全3回開催し、計69名(延べ人数)の参加がありました。今後はコロナ禍においても千里ニュータウンのまちづくりを推進するため、展示だけではなく新たな形式で情報を発信する方策を検討し実施することが必要であると考えています。本施設の老朽化率は17.6%と高くはありませんが、日頃から適切な維持管理に努めるとともに、空調温度のこまめな調整などにより、維持管理費や光熱水費などのコストの節減に努める必要があります。